

2016年10月9日(日)

13:00～17:30

日本学術会議講堂

東京都港区六本木 7-22-34

東京メトロ千代田線「乃木坂」駅5番出口より徒歩一分

市民公開シンポジウム

食料の生産性と質の向上に日本の植物バイオテクノロジーはどのよう貢献できるか—
世界の食料の今そして未来

プログラム一覧

開会挨拶

大杉立 (日本学術会議 / 農学委員会農学分科会委員長)

FAO駐日連絡事務所 所長挨拶

Charles Boliko (国際連合食糧農業機関 / FAO駐日連絡所長)

講演

1. Agricultural biotechnologies for food security:

Is our food enough and safe in 2050?

食料安全保障のためのバイオテクノロジー:

2050年、我々の食糧は十分でかつ安全か?

武内真佐美 (国際連合食糧農業機関 / 農業・消費者保護局食品安全専門官)

2. 産業界の取り組みと課題

今井康史 (バイオテク情報普及会 / 事務局長)

3. 国の遺伝子組換え作物の安全性確保の取組等

高島賢 (農林水産省 / 消費・安全局農産安全管理課審査官)

4. 学術界の取り組みと課題

佐藤文彦 (日本学術会議 / 農学委員会・食料科学委員会合同遺伝子組換え作物分科会委員長)

5. 消費者の遺伝子組換え食品への感覚と意思決定

小島正美 (毎日新聞 / 生活報道部編集委員)

質疑応答

パネルディスカッション

- ・ 遺伝子組換え作物に対する日本国の課題と社会的理解
- ・ 日本の植物バイオテクノロジーの世界貢献

閉会挨拶

川井秀一 (京都大学 / 総合生存学館学館長)

申込方法 | 参加ご希望の方は、9月30日(金)までに

<http://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/blog/2016/07/13/20161009> (思修館 HP) よりお申し込みください。

定員: 200名 (定員になり次第受付を締め切らせていただきます)

参加費: 無料 ※大学学部生・大学院生・一般の方、どなたでもお気軽にお申し込みください。

問い合わせ | シンポジウム事務局 京都大学大学院総合生存学館 (思修館)

担当 山敷庸亮・白石晃将 Email shiraishi.kosuke.57x@st.kyoto-u.ac.jp

共同主催 日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同遺伝子組換え作物分科会 & 京都大学

後援 バイテク情報普及会